

こんにちは。歴史資料室の村上です。

歴史資料室では現在、館内展示「人物で紐解く近代スポーツ 2—青森のスポーツを育んだ人々」を行っています（展示期間は6月30日まで）。この展示は平成29年（2017）に行った「人物で紐解く近代スポーツ—あすなる国体から40年」に続くもので、大正期から昭和初期に青森市で行われるようになったスポーツを中心に上げています。

そこで、今回はこの展示の中からバスケットボールについてご紹介します。

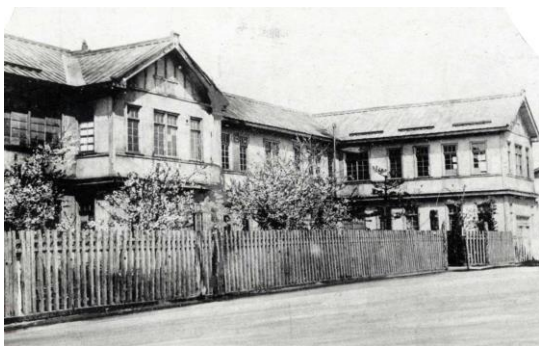
バスケットボールはアメリカの体育指導者ジェームズ・ネイスミスが考案し、明治24年（1891）に初めて競技として行われました。日本では大正時代に競技として定着し、青森県内でも大正10年頃から行われるようになったといわれています。

その嚆矢は大正10年（1921）に青森高等小学校（現浦町小学校）で行われた「らんきゅう」です。これは同校教員の若松武義らが体育雑誌の記事を参考にバスケットボールをまねて行ったもので、次第に市内の小学校へと広まり、卒業生たちによって青森中学校や青森県師範学校などの中等学校でも行われるようになったそうです。

はじめは用具や施設が整わない状態で行われていましたが、やがて本格的なバスケットボールのルールが普及し、大正14年には県立青森高等女学校（現青森高校の前身のひとつ）と青森県女子師範学校（現弘前大学教育学部の前身のひとつ）の混成チームが全国規模の総合体育大会である明治神宮競技大会に初出場しました。

この初出場をきっかけに県内で競技熱が高まり、昭和3年（1928）には青森県体育協会主催の大会（中等学校・一般チーム対象）が開催されました。

実は、この大会の運営には意外な人物が関わっています。昭和3年10月19日付の『東奥日報』朝刊によると、大会の審判長は對馬助五郎（青森県師範学校教員）、レフェリーは若松武義ら3名が務めることになっていました。そして、タイムキーパーにはなんと、のちに画家となる阿部合成の名前があるのです。



菫町尋常小学校の校舎
（『記念誌—創立二十周年—』
〈1942年〉歴史資料室蔵）

阿部はこの年の3月に青森中学校を卒業し、菫町尋常小学校（現菫町小学校）で代用教員（教員免許を持たない臨時的教員）をしていました。小林俊一『あおもりスポーツ群像』（1977年 東奥日報社）によると、阿部は青森中学校在学中にバスケットボールをプレーした経験があったといい、その経験から大会に関わることになったのかもしれませんが。

なお、阿部は翌年に京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）へと進学しています。

※今回の内容は『青森県体育協会史』（1989年 青森県体育協会）などを参考にしました。